

1 AGC株式会社

	各社の考え方
① 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● GHGプロトコルに準拠した当社バリューチェーンCO2排出量の可視化● ステークホルダーからの情報開示の要求への対応● 顧客のサプライチェーンマネジメントへの貢献
② 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● CO2排出量削減施策検討● 算定結果を各種開示媒体で公開● CDP等を通じた顧客への情報開示
③ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● カテゴリごとのCO2排出量を明らかにし、効果的かつ効率的な排出削減対策を打つことができる。● 当社の気候変動リスクの透明性およびバリューチェーンでの取り組みをステークホルダーに訴求することができる。
④ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 環境部門が調達、物流、製造、経理、人事部門等から原始データを収集し、環境部門でカテゴリごとのCO2排出量を算定

2

AGC株式会社

	各社の考え方
⑤ サプライチェーン 排出量の削減に 向けて	<ul style="list-style-type: none">● ホットスポットの一つであるカテゴリ1 CO2排出量削減のため、排出源の可視化と調達方針見直しの検討● ホットスポットの一つであるカテゴリ12 CO2排出量削減のため、算定精度向上および製品の長寿命・廃棄物化量削減
⑥ サプライチェーン 排出量算定の 課題	<ul style="list-style-type: none">● 日本国外の活動量、原単位データの把握● 算定の効率化● カテゴリ13算定のための原始データ把握
⑦ その他 (任意)	

3

AGC株式会社

カテゴリ	算定方法 ※算定対象期間：2019年1月～2019年12月	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 購入量（原材料、消耗品、サービス等）	● CFP-DB
カテゴリ2「資本財」	● 固定資産の投資金額	● 3 EID
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● CFP-DB
カテゴリ4「輸送、配送（上流）」	● 輸送トンキロ	● CFP-DB
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物の種類別排出量	● CFP-DB
カテゴリ6「出張」	● 交通費支給額（旅費等）	● 環境省原単位DB
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 交通費支給額（交通手当等）	● 環境省原単位DB、CFP-DB
カテゴリ8「リース資産（上流）」	● リース資産無いため除外	—
カテゴリ9「輸送、配送（下流）」	● シナリオ設定による輸送トンキロ	● CFP-DB
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 把握困難のため除外	—
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 該当無しのため除外	—
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 販売した製品の想定廃棄量	● CFP-DB
カテゴリ13「リース資産（下流）」	● リース資産無いため除外	—
カテゴリ14「フランチャイズ」	● フランチャイズ無いため除外	—
カテゴリ15「投資」	● 投資先の排出量に株式の保有割合を考慮	—
「その他」	● 上記以外で算出している項目無し	—

4

AGC株式会社

算定結果

● サプライチェーン排出量

	GHG排出量(t-CO2)	
	グループトータル	
カテゴリ1	2,582,934	
カテゴリ2	668,129	
カテゴリ3	1,080,670	
カテゴリ4	1,153,754	
カテゴリ5	29,807	
カテゴリ6	53,575	
カテゴリ7	50,081	
カテゴリ8	-	
カテゴリ9	-	
カテゴリ10	-	
カテゴリ11	831,977	
カテゴリ12	2,748,780	
カテゴリ13	-	
カテゴリ14	-	
カテゴリ15	59,466	
Scope3合計	9,259,173	

